

### 第3回全日本そば打ちマスターズ大会の開催結果概要

- 1 主催 特定非営利活動法人そばネットジャパン
- 2 協賛 岡本木工所 株式会社そばの坂本
- 3 開催日時 令和3年9月26日(日) 9:00~16:00
- 4 開催会場 埼玉県県民活動総合センター 2階セミナーホール1ほか8室
- 5 出場資格

年齢	60~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~
クラス	SJ	S	SS	G	GG	GGG

SJ(シルバージュニア)、S(シルバー)、SS(スーパーシルバー)  
G(ゴールド)、GG(グランドゴールド)、GGG(トリプルゴールド)

#### 6 審査課題

そば粉(粗挽き) 900g 中力粉 100g 計 1000g を水で打つ。(もりそばで約10人前)  
そばを切り終わるまでとし、制限時間は45分  
そばを茹でて試食は無し  
そば打ち技法は自由とする。(結果的に、27人中、通称江戸流が20人、丸延し1本棒などの郷土そば打ちが7人となり、それぞれ自由で楽しい競技会となりました。)

#### 7 審査内容

そば打ち技術(水回し、練り、延し、切り)に加えて、そば打ちの所作、意気込みなどを総合的に審査する。

#### 8 審査員

審査員長	山本育磨	都内でそば店「本陣房」グループを運営する「イクマエンタープライズ代表取締役として活躍
副審査員長	小川伊七	NPO法人そばネットジャパン 副代表理事 師範 杉戸麺打ち愛好会 小川道場 館長
審査員	小山周三	NPO法人そばネットジャパン 副代表理事 師範 西部蕎麦連 代表
審査員	阿部成男	NPO法人そばネットジャパン 代表理事 師範 さいたま蕎麦打ち倶楽部新都心 幹事
審査員	梶川光二	NPO法人そばネットジャパン 執行役員 師範 分桜流・彩次郎蕎麦打ち会 役員

#### 9 出場者の状況 出場者 27名

GGの部 1人 Gの部 1人 SSの部 4人 Sの部 14人 SJの部 7人  
住所地別(1都6県)  
埼玉県 13、千葉県 5、茨城県 4、福島県 1、栃木県 1、群馬県 1、東京都 2

#### 10 表彰

優勝

**GGの部**

優勝 佐藤勝雄(千葉県野田市 杉戸麺打ち愛好会 小川道場)

**Gの部**

優勝 坂牧雄夫(千葉県柏市 GRそば打ち倶楽部)

**SSの部**

優勝 相原喜代治(千葉県我孫子市 GRそば打ち倶楽部)

- 準優勝 神田武紀 (栃木県宇都宮市 みや麺友会)  
 第3位 長嶋光行 (茨城県常陸大宮市 弥七そばの会)  
 優秀賞 松岡八彦 (埼玉県熊谷市 妻沼そば打ち会)

#### Sの部

- 優勝 川鍋敏雄 (茨城県古河市 杉戸麺打愛好会 小川道場)  
 準優勝 浜崎正子 (埼玉県久喜市 杉戸麺打愛好会 小川道)  
 第3位 齋藤正雄 (茨城県古河市 NPO法人そばネットジャパン)  
 優秀賞 小野常夫 (福島県郡山市 そば塾花かつみ)  
 優秀賞 堀 栄次 (千葉県千葉市 NPO法人そばネットジャパン)  
 優秀賞 金子 彰 (東京都大田区 杉戸麺打愛好会 小川道場)  
 優秀賞 森田 阜 (埼玉県春日部市 杉戸麺打愛好会 小川道場)  
 優秀賞 小関昭次 (埼玉県杉戸町 杉戸麺打愛好会 小川道場)

#### SJの部

- 優勝 田中憲一 (埼玉県幸手市 久喜蕎麦打ち倶楽部)  
 準優勝 豊田康彦 (千葉県野田市 杉戸麺打愛好会 小川道場)  
 第3位 千川重之 (群馬県渋川市 渋川そば打ち倶楽部)  
 優秀賞 岸 正明 (埼玉県所沢市 所沢蕎麦打ち会)

#### **そばロスゼロ大賞** 樋口正一 (埼玉県鴻巣市) 圏央手打そばクラブ ロス量9g

世界では1億2400万人以上が明日食えることもままならない深刻な状況になっている一方、日本を含む先進国では食べられるのに廃棄している大量の“食品ロス”が大きな課題となっています。

そばネットジャパンは2019年から「そばロスゼロ」キャンペーンを展開しており、今後、全ての事業において啓発を推進していきます。

#### 11 総評

第3回となる今回の大会は、昨年第2回と同様コロナ感染対策を万全に行つての開催であった。

ただ、昨年から緊急事態宣言も解除、発布と繰り返して、特にこの度の第5波の影響もあつてか昨年定員32名を満了したのに対し、今回は27人ととなったことは残念でしたが、このコロナ禍でもそば打ちに対する意欲的な高齢者が多いことは勇気づけられたものです。

#### 12 新型コロナウイルス感染防止対策

- ◇ 出場者、審査員、スタッフ全員を対象に、ワクチン2回接種後2週間以上経過しているか、主催者が実施する抗原テストで陰性の者のみとしました。  
結果的に出場者、スタッフ総計65名中64名がワクチン接種済みで1名抗原検査陰性でありました。
- ◇ 出場者、審査員、スタッフ合わせて、大会会場の定員(210人)の3分の1とし、出場者の間隔を2m以上空けるため、通常1組12人で実施していたものを9人と制限した。そのため、応援、見学は禁止とした。
- ◇ さらに、大会会場は麺打ち台等がセットされていて、そこで開会式、閉会式を実施すると出場者が密集することになるので、別室を借用して分離して開催した。
- ◇ 会場入場の前に、出場者、スタッフ全員、検温、手指の消毒を行い、会場の換気、1組終了ごとに共用備品の消毒等を徹底した。

## 13 大会風景



開会式は大会会場とは別室で、着席、仕切り板を置いて和やかな雰囲気で開催することができ、出場者からは「そば打ち大会の開閉会は立ったままが多いので、大変リラックスして臨むことができました。」との声がありました。



いよいよ大会開始、審査員も第1組目は特に緊張しているようです。出場者もスタッフもマスク・フェイスールドの着用が原則ですが、出場者で試技中だけはフェイスシールドを外してもよいとしました。



出場者間は、2m以上の空間で換気もよく、この日は外気温も25度以下で、皆さん姿勢もよく気持ちよく打っています。



技法は自由ということで、技能検定五段位の課題である郷土そばの太棒1本で丸延しに挑戦している出場者も6人ですが、逆に5本の麺棒の方もみられました。



成績発表の前に、山本審査員長からの講評です。プロから見たお話は大変参考になったとのこと。



G（ゴールド）の部で優勝し、金メダルを受賞した坂牧雄夫氏（千葉県柏市）

今回の大会の副賞として、新米（2k）16袋を会員の田中憲一氏、樋口正一氏から、新そば（1k）5袋を（株）そばの坂本、銀杏のまな板2枚を岡本木工所から協賛いただきました。厚くお礼申し上げます。